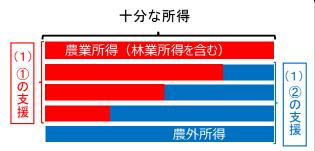
1. 農村における所得と雇用機会の確保に向けた基本的考え方(案)

背景・課題

- (1) 農村、特に中山間地域等においては、人口減少・高齢化等が深刻化しており、地域社会の維持が困難になることが懸念。
- (2) また、農業の担い手不足が深刻化しており、<u>農村、特に中山間地域等においては、農業をはじめとする地域資源を活かした</u> 産業が基幹産業となっていることが多いことから、<u>本格的な営農に限らない多様な形で農に関わる個人や事業体の取組を推進</u> し、<u>農業・農村の支え手の裾野を拡大</u>していくことが喫緊の課題。
- (3) さらに、農地は、一度荒廃すると復旧に多大なコストを要することから、農地を保全していくことも、喫緊の課題。

検討の方向性(案)

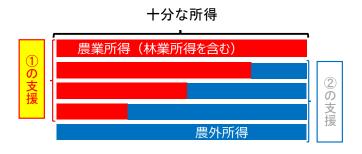
- (1)以上のような課題に対処するためには、本格的な営農に限らない多様な形で 農に関わる個人や事業体について、
 - ① 農業所得の安定・向上
 - ② ①のみでは所得が不十分な個人や事業体による所得確保の手段の多角化を支援することが必要ではないか。
- (2) 具体的には、
 - ・(1)①に関しては、大規模な専業農業経営だけでなく、
 <a href="https://www.ncbi.nlm.ncbi.n
 - ・(1)②に関しては、特に、中山間地域等においては、まとまった土地が確保できない、市場からの距離が離れている等の条件不利性から、平地と同様の雇用促進策を講ずることが困難である一方で、<u>豊かな自然や景観などの様々な地域資源</u>が存することから、農泊、ジビエの利活用などの<u>農村発イノベーション(活用可能な地域資源を発掘し、磨き上げた上で、他分野と組み合わせる取組)による事業の創出活動を行う個人や事業体を支援する必要があるのではないか。</u>
- (3)特に、ポストコロナ時代において、都市から農村への人の流れを加速化させるためには、安心して農村で働き、生活することができる受け皿となるような、農業経営と農村発イノベーションによる事業の創出活動に地域の核となって取り組む事業体を育成する必要があるのではないか。



2-(1) 複合経営等による農業所得の安定・向上

検討の方向性①(案)

- ① 大規模な専業農業経営だけでなく、小規模な個人や事業体の農業への参入や農業所得の安定・向上に向けた支援策を講ずる必要があるのではないか。
- ② 特に、中山間地域等においては、まとまった土地が確保できない、市場からの距離が離れている等の条件不利性から、平地と同様の雇用促進策を講ずることが困難である一方で、豊かな自然や景観などの様々な地域資源が存することから、農泊、ジビエの利活用などの農村発イノベーション(活用可能な地域資源を発掘し、磨き上げた上で、他分野と組み合わせる取組)による事業の創出活動を行う個人や事業体を支援する必要があるのではないか。
- ③ 特に、ポストコロナ時代において、都市から農村への人の流れを加速化させるためには、安心して農村で働き、生活することができる受け皿となるような、農業経営と農村発イノベーションによる事業の創出活動に地域の核となって取り組む事業体を育成する必要があるのではないか。



中山間地域における農業所得の安定・向上(経営モデルの検討)

- 中山間地域等を今後も安定的に維持していくためには、小規模農家等をはじめとした多様な経営体がそれぞれにふさわしい農業経営を実現していくことが必要。このため、中山間地域等の特性や地域資源を活かしつつ、これらの経営体が実現可能と考えられる経営モデルを検討中。
- 農林業センサス等により中山間地域における経営の事例等を把握・分析。
- 単体経営モデルを基に、

 - ② 所得確保の手段の多角化を図る経営体における農業部門の経営の検討材料等として活用。

経営の事例等の把握・分析 農林業センサスや認定農業者の農業経営改善計画 により、中山間地域における経営の事例や実態を把 握·分析。 農林業センサス ○水稲、野菜、果樹、花き による複合経営 類、雑穀・いも・豆類、 体数(部門別組 丁芸作物、肉用牛、林業 合せ)の実態を の主部門と副部門の 把握 組合せパターンを設定 ○中山間地域における複合 経営で、就農又は認定10 認定農業者 年以内の事例等を収集 による経営事例 ○地域資源活用、有機栽培、 の収集・分析 収益性、汎用性等から 優良事例を選定

新たな視点からの検討

- ・中山間地域の特性や地域資源、複合経営の強み(利 点)を活かした経営モデルの検討
- ・単体経営モデルを基に、様々な複合経営モデルを提示するとともに、所得確保の手段の多角化を図る経営体における農業部門の検討材料等として活用

単体経営モデルの提示

各部門ごとに以下の4タイプの単体経営モデルを提示 ①50万円 ②100万円 ③100万円~200万円 ④250万円~350万円の

複合経営モデルの提示

優良事例の改善型(省力化、低コスト化、安定化、 汎用化、等)として、水稲、野菜、果樹、花き類、 雑穀・いも・豆類、工芸作物、肉用牛、林業の各部門の組 合せによる複合経営モデルを提示